

第612回

I B C番組審議会 議事録

— 議 題 —

「忘れない3. 11 漁師のハードル」

平成28年7月14日（木）

（株）I B C 岩手放送

第612回IBC番組審議会

1. 開催日程 平成28年7月14日(木) 午前11時

2. 開催場所 IBCデジタルセンター3階Dホール

3. 委員の出席 委員総数 10名

出席委員 8名

出席委員の氏名

委員長 田代 高章

副委員長 熊谷 志衣子

委員 畠山 俊彰 村井 康典

龍澤 尚孝 宮 順子

岩田 圭司 澤口 たまみ

欠席委員の氏名 栗田 均 小松 務

会社側の出席

鎌田 英樹 代表取締役社長

武田 敏哉 取締役放送本部長

黒澤 秀之 取締役営業本部長

中島 勝志 報道局長

木下 義則 報道部ディレクター

事務局

若槻 修 番組審議会事務局長

平澤 泰志 番組審議会事務局員

4. 議題 「忘れない3.11 漁師のハードル」

5. 議事の概要

<委員の主な発言>

- 被災地に寄り添ってきた地域密着型の放送局ならではの番組と高く評価している。津波によって漁家の担い手不足が加速したというテーマ出しから、県外のIターン若者の挑戦をストーリーとして展開するとか、また漁業のハードルを3つの切り口で整理するなど、視聴者にわかりやすく伝わる構成になっていた。
- 担い手不足のための漁業学校。漁師になろうという奈良さんと、世話をする倉本さんの師弟関係を追いかけていた。漁業について、実際に本当はどれくらいかかれば1人前の漁師として認められ、生活していけるのかどうか等もわかりやすく伝えてくれるともっと良かった。全体としては、奈良さんのキャラクターもあり、いろいろ大変なところもあるが、あまり暗くなり過ぎずに結構、軽めのノリだったところも私は悪くなかったと思う。
- 新しい漁師が育つのは夢のまた夢なのではないか。先輩漁師が新人を面倒みたときに幾らか手当があるのかどうかとか、農業のようにそういうことがあるのか。もしないのであればどうするのという問いかけが先輩漁師の言葉なり、地元の人たちのインタビューなどで多少拾えればなお良かった。
- 漁業で飯を食っていくことについては、そんなに甘いものではないよという厳しい現実を教えてくれるいい番組だったと思う。非常に番組に救いがある。奈良さんのキャラクターと師匠の倉本さんとのやり取りで温かく見守っているというものを感じた。
- 漁業を全く知らない人間でもどんな問題があつてというのがわかりやすく1、2、3とハードルの内容を説明していたのがとても良かった。と同時に、自分も何か動かなければという思いを抱かせるような面もあった。
- 30分の番組で時間の制限もあり、解決策を示すのは報道の役割とは思わないが、学者や行政から解決の方向性や現状の取り組み状況についてコメントがあれば、ちょっと安心したのかなという気がした。
- 新人漁師のその後や関連した課題提起について、ぜひ継続して紹介してほしい。